

# 第 17 回和光市下水道事業運営審議会会議録

令和 2 年 2 月 4 日（火） 602 会議室

第 1 7 回 和 光 市 下 水 道 事 業 運 営 審 議 会			
開 催 日	令和2年2月4日(火)	開会時間	14時45分
会 場	市役所6階 602会議室	閉会時間	15時45分
委員の出欠	出席	欠席	事務局
	長坂 敏史 石垣 吉喜 浜口 武 富澤 勝 近藤 やす子 富澤 美代 今井 千津子 舩越 靖彦 萩原 三枝子	串田 幸彦	上下水道部長 戸田 伸二 企業経営課長 深野 充司 水道施設課長 佐々木 一弘 企業経営課課長補佐 結城 幸子 下水道課長 本橋 勝己 下水道課課長補佐 金井 宏之 企業経営課経営担当 統括主査 山崎 智恵子 企業経営課主査 矢萩 美和
			傍聴者 0名
議 題 等	・委員紹介 (1) 会議録署名委員の選出 (2) 下水道事業の経営状況について(令和2年度下水道事業予算について) (3) 下水道事業経営戦略について		

発言者	内 容
事 務 局	<p style="text-align: center;"><b>開 会</b></p> <p>本日は、お忙しい中お集まりいただきありがとうございます。          それでは第17回和光市下水道事業運営審議会を開催いたします。          本日の会議は、和光市下水道事業運営審議会条例第6条第2項の規定により過半数の出席を得ております。          また、本日の会議は、市民参加条例の規定に基づき、公開とさせていただきます。          併せて、会議録につきましては、同条例の規定に基づき、公表してまいります。          次に、本日配布いたしました資料の確認をいたします。お手元の資料をご覧ください。</p> <p style="text-align: center;"><b>資料確認</b></p> <p>ここで、村上誠二委員の後任として、新たに和光市下水道事業運営審議会委員にな</p>

られた、本田技研工業株式会社の石垣吉喜様に委嘱書をお渡しします。

本来ならば、和光市長が直接お渡しするところですが、公務のため上下水道部長からお渡しさせていただきます。

戸田部長、お願いいたします。

## 委嘱

なお、本日は、株式会社東洋設計事務所から、廣瀬様、佐藤様、肥田様、株式会社エスネットワークスから高桑様にご出席いただいております。

ここで、上下水道部長からご挨拶を申し上げます。

戸田部長、お願いいたします。

上下水道部長

皆様こんにちは。

上下水道部長の戸田と申します。本日は、第17回和光市下水道事業運営審議会の開催にあたりまして、長坂会長、委員各位におかれましてはご多用のところご出席いただきまして誠にありがとうございます。

さて、本日の議題は、令和2年度和光市下水道事業会計予算案と、下水道事業経営戦略案についての予定でございます。新年度予算につきましては、豪雨対策としまして、谷中川第4号雨水幹線工事、地震対策としまして下水道事業耐震対策工事を新規事業として計上しています。

また、経営戦略につきましては、昨年11月にご審議いただいた内容をベースに策定したものとなっております。

詳細については、深野次長から説明がありますので、よろしくお願いいたします。

事務局

それでは、議事に入らせていただきますので、長坂会長、よろしくお願いいたします。

長坂会長

本日の議題は、二つあります。

令和2年度の予算と経営戦略についてです。

令和2年度の予算は、3月の市議会定例会に議案として上程する予定とのことです。また、経営戦略については、この会議における審議の後、事務局において、市民から意見を募る「パブリックコメント」を行い、その後、さらに、全員協議会という、重要案件について討議するために市議会議員の全員が集まる会議において説明を行う予定がございます。経営戦略の公表は3月末ですが、それに向けた重要な会議となりますので、皆様のご意見をいただければと思います。よろしくお願いいたします。

はじめに、本日の会議録署名委員の指名を行います。

第2号委員の串田委員と第3号委員の今井委員にお願いしたいと思いますが、本日はまだ串田委員がいらっしゃっていないようです。

下水道課長

では、まず、今井委員、よろしいでしょうか。

【今井委員了承】

それでは今井委員、よろしくお願いいたします。

次に、議題（２）の令和２年度埼玉県和光市下水道事業会計予算案について事務局から説明をお願いします。

下水道課長の本橋です。よろしくお願いいたします。

議題（２）令和２年度埼玉県和光市下水道事業会計予算案について説明させていただきます。

資料２をご覧ください。

まず、１収益的収入及び支出のうち事業収益について説明します。

事業収益の総額は、１１億８，７４７万６，０００円で、前年度に比べ３３５万２，０００円の減額となっています。主な内容は、営業収益では、下水道使用料が６億７，６２８万３，０００円で１，２８４万２，０００円の増額、雨水処理などに要する経費としての一般会計からの他会計負担金が２億７，１２３万７，０００円で５９２万６，０００円の減額などとなっています。

営業外収益では、総務省通知に基づく一般会計からの繰入金としての他会計補助金が６，７１８万２，０００円で８６５万４，０００円の減額、長期前受金戻入が１億６，８５０万円で１５６万４，０００円の減額などとなっています。

次に、下段の表の事業費の総額は、１０億４，２０４万４，０００円で、前年度に比べ３，０５２万２，０００円の減額となっています。主な内容は、営業費用では、施設維持関係委託の雨水・汚水合計が４，４５３万９，０００円で１，０７３万７，０００円の減額、施設維持等修繕の雨水・汚水合計が４，０２４万９，０００円で１５９万５，０００円の増額、下水道使用料算定及び徴収事務委託が５，０２０万４，０００円で１５６万８，２００円の増額、荒川右岸流域下水道事業維持管理負担金等が２億９，２５４万３，０００円で１２９万５，０００円の増額、減価償却費が４億７，４８９万１，０００円で２８５万１，０００円の増額などとなっています。

営業外費用では、下水道事業債利子償還金が５，５７３万９，０００円で１，０４６万７，０００円の減額、消費税及び地方消費税が５４４万６，０００円で１，７４３万６，０００円の減額などとなっています。

次のページの、２資本的収入及び支出のうち資本的収入について説明します。

資本的収入の総額は、８億３，４９８万６，０００円で、前年度に比べ４億２，４４１万１，０００円の増額となっています。主な内容は、企業債が５億２，７１０万円で２億５，５００万円の増額、国からの補助金としての社会資本整備総合交付金が２億７，９００万円で１億６，６００万円の増額、営業外収益と同じく総務省通知に基づく一般会計からの繰入金としての他会計補助金が１，４１３万５，０００円で４２万１，０００円の減額、和光市駅北口土地区画整理事業にかかる工事負担金が１，

463万1,000円で383万2,000円の増額などとなっています。

次に、下段の表の資本的支出の総額は、12億3,944万3,000円で前年度に比べ4億972万3,000円の増額となっています。主な内容は、建設改良費では、工事請負費の雨水・汚水合計が7億5,978万9,000円で4億3,777万3,000円の増額、委託料の雨水・汚水合計が771万1,000円で3,873万円の減額、荒川右岸流域下水道事業建設負担金が5,259万2,000円で2,785万6,000円の増額などとなっています。

企業債償還金は3億6,941万8,000円で1,589万6,000円の減額などとなっています。

欄外になりますが、主要な建設改良事業として、令和元年度からの2か年継続事業として、越戸川第1号雨水幹線整備事業、令和2年度からの2か年継続事業として、谷中川第4号雨水幹線整備事業、汚水管の地震対策として、下水道事業耐震対策工事を実施する予定です。

全体として、令和2年度予算案における一般会計からの繰入金総額は、3億5,255万4,000円で前年度に比べて1,500万1,000円の減額となっているものの、純利益は9,911万4,000円で333万9,000円の増額となっており、財政的に健全な予算案となっています。

説明は以上になります。

長 坂 会 長

ありがとうございました。この予算案については、市議会3月定例会において審議されますので、今回のこの案に対しては、質疑応答は行わず、次の議題に移らせていただきたいと思います。

以上で、令和2年度埼玉県和光市下水道事業会計予算案については終了させていただきます。

次に、議題(3)の下水道事業経営戦略について、事務局からご説明をお願いします。

上下水道部次長  
(企業経営課長)

皆さんこんにちは。本日は、お忙しいところお越しいただきましてありがとうございます。企業経営課長の深野でございます。

下水道事業経営戦略について説明いたします。

11月の審議会において、経営戦略はこういう内容で作っていきますよ、ということ概要版で説明させていただきました。

先月、皆様に経営戦略の本編を送付させていただきましたが、その後、さらに精査し、修正を加えておりますので、本日は修正箇所の一覧と本編等をあらためてお配りしています。語句の修正や、追加事項がありましたので、本日お配りしたものが最新版ということになります。

本日は、この最新版で説明させていただきます。

最初に、1ページ目ですが、経営戦略の趣旨と位置付けを載せています。

以前もお話しましたが、下水道はもともと市の事業として行ってきました。和光市の場合には平成26年度から企業化しましたが、国の方からは平成32年度、令和2年度までに基本的には企業化することがうたわれ、企業化の動きが出てきました。

なぜそのような流れになったかと言いますと、これから少子高齢化が進み、支えていく人間が減る一方で、昭和30年代から40年代に作られた下水道管が老朽化して費用はどんどんかかっていますので、きちんとした経営の戦略のもとに管の維持管理を進めていかないと、下水道の事業を運営していくことが難しくなるからです。企業化も、その手段のひとつと捉えております。

このようなことを踏まえて、今回、経営戦略を作成しているわけです。

企業化してからは、平成26年度から平成30年度まで、計画期間5年の「和光市下水道事業中期経営計画」に基づいて事業を進めてきました。

下水道事業は企業ですが、汚水処理費は皆様からいただく使用料、つまり私費で賄っています。一方、雨水は自然のものなのでその処理に係る費用は公費で賄っています。ここが水道事業とは違う部分です。

下水道事業は、平成26年度から企業化しましたが、企業化した当初は、市からの援助が必要でした。そこで、中期経営計画において、援助を受けるのは平成30年度までという目標を立ててやってきました。

その結果、平成31年度の予算からは市からの援助金を入れなくても予算を立てられるようになりました。このため、中期経営計画で立てた目標は達成できたと解釈しております。

その後、計画を継続する必要があったのですが、やはり国の方から、今度は10年の戦略を作っていく必要があるとうたわれましたので、1年間空いてしまいましたが、それに基づいて令和元年度に令和2年度から令和11年度までの10年を計画期間とした戦略を作っていくということになりました。

なお、更新費用等の算出に際しましては、向こう30年間の推計を行っています。

以上、2ページと3ページでは、これまでの変遷を書いています。

和光市は、昭和45年に荒川右岸の流域下水道の一部としてスタートしております。荒川の右側にある13市町が一つの処理場に汚水を流して、そこで効率よく処理していくことになりました。和光市の場合は市内に処理場がありますので、和光市の汚水は直接その施設に流れて処理されています。

その後、平成30年には汚水の排水区域が広がっています。これは、今、市役所のすぐ横で進めている、高校や支援学校を下水道につないでいく工事や、市の南側の調整区域、これは、下水道につながらない地域なのですが、そこで下水道につないでいる場所がありましたので、範囲が広がってきているものです。

その関係で、来年度以降に高校等の3校も下水道につなぐ流れがありますし、あと、隣にある自衛隊駐屯地も将来的につなぎたいという意向がありますので、関係する市

町村で協議中です。

先ほどもお話ししましたが、3ページの一番下にある、和光市が属する荒川右岸流域下水道は、荒川の右岸にある10市3町を対象として昭和56年からスタートしております。

4ページの(3)をご覧ください。

下水道使用料は、平成23年4月1日に改定し、それ以来改定は行っておりませんので、表の金額で運用しています。

5ページの図は、現行の上下水道部の組織体制です。

6ページから9ページまでは、現状分析ということで経営の指標を掲載していますが、和光市の状態がどのような状態なのかを、健全性、効率性という視点から示したのになっています。それぞれ、人口規模が近い類似団体との比較や、全国平均等との比較を行い、和光市が今どのような状態なのかをこちらで表示しています。

見ていただくと分かるように、和光市は概ね各数値で良い方に位置しています。特に、8ページの水洗化率、これは区域内で下水道につないでいる割合ですが、98.86パーセントという高い割合を維持しています。

先ほどもお話ししましたが、和光市は、市が独自に汚水の処理をする施設等は持っていませんので、その面で、施設にかかるメンテナンスの費用というものを抑えられている状況です。一方で、荒川右岸の処理場に対しては負担金という形で予算を計上して運用の費用を支払っています。

それから、9ページの一番上ですが、管の老朽化に関しても、全国平均では約40パーセントということになっていますが、和光市は14.58パーセントとなっていて、比較的良い数字が出ていると言えます。

和光市の下水道の汚水管は内径25センチメートルのものが多く、カメラを入れられる大きさになっています。水道管は数センチメートルなのでカメラを入れることはできませんが、下水道の場合は、きちんと予算を立てて、和光市を北と南の地域に分けて、計画的に内径25センチメートルから80センチメートルくらいまでの管にカメラを入れて調査し、内面から管の補修をしてきましたので、このような数字が出てきています。

それから、10ページと11ページになりますが、今後の人口動態を見ていったものになります。

資料に書いてありますとおり、和光市の場合非常に恵まれていて、現在策定中の第5次和光市総合振興計画で出した人口推計においても、微増ではありますが向こう10年間は人口が右肩上がりの予測となっています。これに基づいて、下水道の水洗化人口等もこれから増えていくだろうという予測を立てています。これに伴い、お金として戻ってくる水量である有収水量も増加の予測を立てており、他の市町村に比べると明るい状態です。

12ページは、使用料収入の見通しを立てていますが、荒川右岸の処理場で処理しただけの単価については、向こう5年間は引き上げないということが確定していますので、向こう10年間、使用料は現行のままでいけるだろうという予測を立てています。ただし、これはあくまでも推計でございます。今後、特に数年間は豪雨や地震等の災害に備えた費用を準備しなければならないとも考えていますので、ひとまず5年間、シミュレーションでは10年間、値上げしないでいけるだろうという予測を立てているところです。

それから、13ページ中段には、先ほど申し上げたカメラ調査のことを載せています。カメラ調査により管路は良好な状態を保っていますが、これからは、昨年策定しました和光市下水道総合地震対策計画に基づき、弱いマンホールの補強等を進めていく予定になっています。将来的な施設の在り方や利用方法については、経営戦略では30年間の見通しを立てていますが、本来であれば、ストックマネジメントを策定し、その技法に則って修繕等を進めていくのが正しいやり方かもしれません。しかし、和光市は、長寿命化計画のひとつとしてカメラ調査を実施してきましたので、今後、国から策定の方向性が示されているストックマネジメント計画を策定し、その計画に則ったやり方になっていくだろうと考えております。その関係で、このシミュレーションも多少変わってくる可能性がありますので、ご承知おきいただきたいと思います。

18ページ以降は、これから実際にどれくらいの費用がかかっていくかを示しています。污水管は約99パーセントの整備ができており、定期的にメンテナンスを行っていますので、そこまで大きな費用を見込んではいないのですが、やはり、雨の対策ということで、雨水管路の整備にシフトしていかなくてはならない状況です。

21ページの下の方に建設改良費の予測がありますが、令和2年度の建設改良費が8億4,000万円くらいのところ、令和3年度は4億9,000万円、令和4年度は1億5,000万円となっています。これは、先ほど予算の中で説明させていただいたとおり、現在進めている5か年計画の越戸川雨水幹線整備工事にお金がかかっているということです。特に、来年度は工事のピークに当たる部分で金額がかかる時期になっています。令和5年度以降は、平均的に約3億円がかかると見越しております。

これも、今後の進め方によって、雨水の方にお金がかかるようになってくるとシミュレーションが変わってくる可能性もあります。しかし、雨水の工事は公費で賄うものですので、下水道の使用料に反映してくるかという点とまた違う部分ですので、使用料の改定とは切り離して考えていかなくてはならないと思っています。

23ページには、シミュレーションについての説明があります。

その中で、企業債について説明しています。企業債は借金になるのですが、10年間で21億円の発行を予定しています。これは、将来に渡って費用を公平に負担していくという考え方から来るものなのですが、借金をしながらでも、きちんと整備をしていくということになります。

水道事業は平成11年頃に料金改定をして以来改定をしていませんので、事業を進めていく上で厳しい状況が予想されるため、料金改定を想定していますが、下水道事業は、今後、差し当たっての使用料改定は想定しておりません。24ページのところで結論として載せているとおり、企業債の発行により安定的な事業運営に努めていきますが、ストックマネジメントの内容を反映したものではないため、今後ストックマネジメントを策定し、中間見直しを図りたいと考えております。以上でございます。

長坂会長

ありがとうございます。

ただ今の議題、下水道事業経営戦略について、ご質問はございますでしょうか。

確認ですが、平成31年度で、汚水は援助金がなくなったということですがよろしいですか。

下水道課長

はい。

長坂会長

雨水は公費負担ということでしたが、7ページの経費回収率のところで、全国平均は100パーセントを超えているのに対し、和光市は88.77パーセントでした。これはどのようなことでしょうか。

下水道課長

はい、経費回収率についてですが、これは、収益的収支に関するものです。

和光市は下水道使用料が比較的安いので、収益は出ているものの、儲けを少なく見せてしまっているところがあります。下水道使用料を値上げして100に近付けることも可能ですが、支出の抑制等で100に近づけるように推移してきている状況です。

おっしゃるとおり、100を超えることは大事です。

上下水道部次長  
(企業経営課長)

雨水は公費で賄うものなので、工事の費用等は一般会計から繰り入れるのですが、一般会計も財政状況が厳しいので、雨水工事に対しても起債をしているところです。国や県の補助金を受けられるものに対しては、そのようなものも活用するようにしています。

今後、経営戦略の有無が国や県の補助金を受ける条件になることも考えられますので、経営戦略を立ててやっつけていこうとしているところです。ストックマネジメントも同様です。

長坂会長

和光市の場合、雨水処理の費用は一般会計が負担するとのことですが、他市もそうですか。

上下水道部次長  
(企業経営課長)

はい、そうです。

県のように、雨水と汚水を別の部署で担当しているところもありますが、和光市くらいの規模ですと両方をやらざるを得ないので、公費と私費の二つの流れでやっつけていくこととなります。

長坂会長

そうですか。次に、細かい質問になりますが、12ページの真ん中の図ですが、69.88円の前に、70.38円とあるのは実績でしたでしょうか。

上下水道部次長  
(企業経営課長)

70.38円というのは、平成30年度の使用料単価の実績で、69.88円というのは、将来予測です。

長 坂 会 長  
上下水道部次長  
(企業経営課長)

下がってくるということですね。

はい。

そのようなことも踏まえて、今のところ使用料改定は想定しなくてもよいのではないかと考えております。

石 垣 委 員

使用料を上げないというのは非常に健全だと思われるのですが、その代わり、計画期間の10年間において企業債を約21億円発行するとのことでした。企業債の償還は公費ですよ。自己資本比率を見ると、78.05パーセントと、良い数字です。21億円を発行することで、将来的には90パーセント以上という高比率になるようですが、21億円もかけなくてはならないのはどのような理由なのでしょう。

下 水 道 課 長

下水道事業では、汚水管渠の整備と雨水管渠の整備を行っていますが、汚水管の整備率は95パーセント以上となっています。それに対し、雨水管等の整備率、これは管路に限らないのですが、去年の数字で約50パーセント程度です。気候変動の影響で、豪雨が降ることが増えてまいりましたので、雨水管の整備も実施していこうと思っています。雨水管渠の工事は、大口径の管を埋設することが多いので、工事の規模が大きくなり、1メートルあたりの整備費用が汚水管渠の整備費用よりもかかります。財源として、企業債を活用するわけですが、世代間負担の公平性の確保という意味もありますので、必要な借入れはしていこうと考えております。

石 垣 委 員

借り入れる必要があるというのは分かりますが、21億円という規模感が分かりにくかったので確認したいと思いました。

上下水道部次長  
(企業経営課長)

21億円借りるというのは、そのほとんどが雨水整備のためになります。今進めている越戸川の雨水幹線整備工事は、市の北側の低い土地の辺りに180センチメートルくらいの管を入れる工事なのですが、5年計画で総額10億円くらいの金額がかかってきます。

また、予算に載せているのですが、谷中川第4雨水幹線整備工事の関係では、数年前に駅前のアンダーパスで浸水してしまった場所に管を入れて排水の流れを良くし、事故の無いようにしていこうとしています。今後は、雨水対策工事の費用がかさんでくるということです。

石 垣 委 員

承知しました。

船 越 委 員

水道に詳しい知り合いに和光市のことを聞きましたら、和光市はフィールドが良いし、管理もよくやっているとのことでした。

工事には多くの費用がかかりますが、今後更に多額の費用がかかるための、安くやる方法を考えることも必要でしょう。

他県では水道の整備費用が高くて大変なところもあるようですが、和光市は水の供給単価が安いなどの良い面もあるので、コンサルティング会社等と組みながらやっていくことも必要ではないかと思えます。

今回からコンサルさんが入られてるのですか。

上下水道部次長 (企業経営課長)	今年度、令和元年度から入っていただいて、前回の会議にもご出席いただいています。
船越委員	コンサルティング会社は、市民が分かりやすいものを作ってくれるので、業務を委託するのはとても良いことだと思います。
長坂会長	ありがとうございます。 他にご意見などはありますか。 今回は、使用料の値上げが検討されているわけではないので、生活への直接の影響がなさそうですが、何かご意見はございますか。
上下水道部次長 (企業経営課長)	少し細かい質問になりますが、13ページの一番下にある「施設延命化などの事業費平準化に向けた検討を行っていきます」とは、具体的にどのようなことですか。 現在はストックマネジメントに当てはめて事業を進めている訳ではありませんので、後付けにはなりますが、それを作って、管路等の施設の見直しをかけていくということをしなさいといけません。
長坂会長 上下水道部次長 (企業経営課長)	雨水の方は貯水池がありますけれども、ストックマネジメントを作ることによって延命化の費用の算出をより明確にし、経営戦略に当てはめていくという意味合いで事業費平準化に向かっていくということをうたっているところです。この部分について、まだ完璧なものにはなっていないということです。
長坂会長 萩原委員	ストックマネジメントのことですね。 はい、そうです。
上下水道部次長 (企業経営課長)	皆さん、他に何かございますか。 ストックマネジメントとは何ですか。 これまで、古いものは壊して新しいものを作るという考え方で施設を整備してきました。新しい建物を建てる時などは、今より簡単にお金を投資してきたわけです。しかし、少子高齢化等の影響もあり、「あるものを使っていきましょう」という考え方に変わってきました。地方では、廃校になった学校の建物を取り壊すのではなく、食堂にしたり、運営を民間に委託したりしています。下水道の管も同じで、古くなったから取り換えてしまうということではなく、なるべく延命化を図って、費用を抑えて長く使っていきましょうという考え方をしていく方向になっています。これをもとにしてやっていった場合に、30年後にかかる額がいくらなのかを見越して、それを一年ずつ割って、平準化して、一年ごとにどれくらいの経費がかかっていくかを計画的に考えていきましょうという考え方です。
萩原委員 上下水道部次長 (企業経営課長)	分かりました。 流れとして、そのようなやり方をしていかないと、少子高齢化は乗り切れず、市町村が潰れてしまうという考え方です。
萩原委員	ありがとうございます。

長坂会長

難しいですね。

要するに、補修等をしながら、延命を考えるとということですか。

上下水道部次長  
(企業経営課長)

はい。実際には、これまで補修をしてきているので、それをまとめていくような形でやっていければと思います。

長坂会長

システム化したり、もう少し高度化したりするということですね。

下水道課長

今までストックマネジメントを作らなかったのは、和光市の場合はカメラ調査を20年近く実施し、管路内の傷み具合を目視で正確に把握できていたためです。

国からの話の中では、ストックマネジメントで、今ある施設をいかに延命化させていくかを把握するよというところが命題の一つだったのですが、和光市は画像データで常に状況を確認できていたので、慌てて計画を立てて調査をするという方法を探らずに済んでいました。データは手元にありますから、2年後くらいに、ストックマネジメントを策定して、今後は計画的な延命化に取り組んでいきます。

長坂会長

分かりました。ありがとうございました。

他にありますか。

近藤委員

近年ゲリラ豪雨が起きていますが、和光市内も、雨が浸透するような畑が減っているようですが、雨水管に全部の雨水が流れても大丈夫ですか。

マンホールが吹き上がるのを見たことがあるのですが、1時間に50ミリメートル以上の雨が降ったときにも大丈夫ですか。

和光市の場合は、雨水は低い土地の方に流れていきますけれども。

長坂会長

安全対策ですね。集中豪雨が最近多くなってきているので、どのような雨水対策をしていますか、ということですが、いかがですか。

下水道課長

雨水対策ということですが、方針としましては、過去に浸水実績があったところから順に着手してきていて、整備率が約50パーセントとなっています。

また今後も、ご指摘のゲリラ豪雨のように1時間に50ミリメートルを超えるような降り方をすることがあると思いますので、和光市の基準である、1時間に55.5ミリメートルの雨に耐えうるような雨水管を整備していくということを事業計画に定めて進めていきたいと思っています。

雨水が流れ込む新河岸川、白子川、越戸川の方の対策も進めば、今後、もっと流せるようになるということもあると思うのですが、現時点で流せるぎりぎりの量を賄えるような雨水管の整備に、優先的に投資してきているところです。

今後も、浸水の恐れのあるところの工事を進めていきます。

上下水道部長

河川改修についてですが、和光市の雨水の全てが流れ込む新河岸川本線は、昭和57年に発生した豪雨の量を計画放水量として改修されています。

一方で、白子川、越戸川、谷中川といった支線も、全て改修が終わった訳ではありません。白子川の一部は東崎橋から芝屋橋まで、越戸川も赤池橋から新河岸川までの一部が未改修の状態です。これらが全て終わって、更に、内水の雨水対策として、下

水道課長が言った55. 5ミリメートル対応の雨水管の整備が進んでいけば、冠水事故や、報道されているような状況はかなり減るだろうと考えられます。

ただ、未改修の河川が残っていますので、完成するのは先だと思っています。

長 坂 会 長

今のような費用は経営戦略に入っていますか。

下 水 道 課 長

下水道事業を行うために、下水道事業計画というものを策定しており、その中に、雨水の残事業の総額は出しているのですが、それは、内径1メートルの管を200メートル入れるためには一般的にはどのくらいかかるのかという概算を出しているものです。また、残事業が正確な額としていくらかかるのかということは10か年の計画である経営戦略には入っていません。あくまでも、10年間の計画なので、残事業にいくらかかるのかといった内容は読み取れません。

長 坂 会 長

10年後に計画するときには入るといえることでしょうかね。

あとは何かございますか。

急にこのような数字を見せられると理解が難しい書類かもしれません。

私が見ますと、大きな変更はそれほど無いようです。

急に下水道使用料を上げるとか、何か施設の様子が変わるとか、そのようなことは無いように思います。

よろしいですか。

無いようですので、和光市下水道事業経営戦略については終了いたします。

署名委員についてはいかがいたしましょうか。

事 務 局

串田委員がご欠席されましたので、浜口委員にお願いしたいと思います。

長 坂 会 長

浜口委員、よろしいでしょうか。

【浜口委員了承】

よろしくお願ひします。

その他、事務局から何かありますか。

上 下 水 道 部 次 長

会議の最初に、会長から今後のスケジュールについてお話いただきましたが、今日の内容も含め、2月15日から3月8日まで約3週間パブリックコメントを実施します。

(企業経営課長)

そして、2月25日に市議会の全員協議会で説明をさせていただきたいと思っています。その後、3月末までに取りまとめをして、策定後に公表していきます。

委員の皆様には、完成版を送付させていただきたいと思っておりますのでよろしくお願ひいたします。

長 坂 会 長

それでは、以上で、第17回和光市下水道事業運営審議会を終了いたします。